

10

また同日、名古屋市内の大学で「商品開発・管理学会」の10周年記念大会が開催され、「地域デザインと商品開発」というセッションにパネリストとして参加しました。「地域市民を巻き込んだデザイン参加プロセス」と「プロセスそのものの開示と相互対話」というテーマで大ナゴヤ大学の事例

いい「モノ」プロデュース

大学が企をいただきました。
業と実践 現在、大ナゴヤ大学では、
した『ビ身のまわりにある地元企業

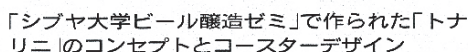
に販売された場合の収益から何パーセントかを大ナゴヤ大学の運営資金として寄付していただく、という形を見据えて取り組んでいま

モデルを公開
企業とタイアップへ

は、必要な実費以外、原則無料で行っています。多くの人が気軽に参加できる仕組みを作ることで、そこに幅広い知恵や情報が集まります。市民の中にファンをつくりたいという企業や、市

民サービスを一緒に考えた「シヨンの民主化」が進む
 という行政からの予算なことでしょう。

【NPO法人 大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネット ワーク学長・理事長 加藤 モデルが実現できるよつに 慎重】



【NPO法人 大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネット
ワーク学長・理事長 加藤
慎康】